

ストーリーテリング

実践のコツ



山梨県立図書館
YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

当館では、子どもの読書活動の実践に役立つガイドブックとして「読み聞かせ ー実践のコツ&絵本の選び方ー」「ブックトーク ー実践のコツ&本の選び方ー」に引き続き、「ストーリーテリング ー実践のコツー」を作成いたしました。

ストーリーテリング (storytelling) は、お話を楽しみながら感受性や想像力を育て、子どもと本を結びつける方法として、図書館や学校などで実践されてきました。

この冊子は、集団を対象に、これからストーリーテリングをやってみたいと考えている方に向けたガイドブックです。お話の選び方や覚え方、語る時のポイントなど、ストーリーテリングの基本を紹介します。

子どもと本を結びつけるストーリーテリングに、あなたも挑戦してみませんか？

目 次

はじめに	1
1 ストーリーテリング (お話を語る) とは	2
2 やってみよう！ストーリーテリング	
(1) お話を選ぶ	4
お話を選ぶための本	6
(2) お話を覚える	7
(3) お話を語る	9
語りのQ&A	11
(4) ストーリーテリングの実践	12
3 参考図書	14

1 ストーリーテリング (お話を語る) とは

ストーリーテリング (storytelling) とは、語り手が昔話や創作などの物語を覚え、語り聞かせることです。「素話」とも言います。絵本の絵を見せながら物語を読み聞かせる「読み聞かせ」や、本の「朗読」とは異なり、物語を覚えて、自分のことばで語るという手法です。

『お話とは』松岡享子著（「参考図書」p.14参照）によると、アメリカの公共図書館で子どもへのサービスとして行われていたストーリーテリングということばが日本に入ってきたのは、1960年代のことでした。その後、アメリカで図書館学を勉強してきた方々によって日本に紹介され、1970年代に急速に広まりました。

一方、ストーリーテリングということばが広がる以前から、日本でもお話は語られてきました。かつて子どもたちは、こたつでおじいさんやおばあさんから、あるいは、寝る前にお父さんやお母さんから語られる昔話に耳をすませました。語ってくれる人の愛情と一緒に、昔話を楽しみながら、生きていく知恵などを身につけ、心に刻んできました。

ストーリーテリングを通じて、語り手と聞き手の間に心の交流が生まれ、親密で温かい人間関係が築かれています。

ストーリーテリングの三つの要素

ストーリーテリングは、「お話」「語り手」「聞き手」の三つの要素から成り立っています。

古くから語り継がれてきた昔話や、グリム童話やアンデルセン童話などに代表されるたくさんのお話があります。



お話



語り手

語り手は、良いお話を選ぶこと、お話の世界を頭の中ではっきりと描き出して語る事が大切です。



聞き手

子どもがお話を楽しめるようになるのは、語彙力が増え、ことばを使いこなす力がつく4歳頃からです。

ストーリーテリングの目的と効果

お話を語ることで、次のような目的と効果が期待できます。

◆ 心を育てる

お話を通して、様々な登場人物と出会い、喜びや悲しみ、楽しさなどの感情を共有することで、豊かな感性を育てることができます。

◆ 想像する力を養う

耳から聞いたことばから、登場人物の様子、場面や情景、お話の筋などを、頭の中で想像する力をつけることができます。

◆ 考える力を培う

お話の流れを理解していくことで、展開を筋立てて論理的に考える力をつけることができます。

◆ ことばの力をつける

たくさんのことばと出会うことで、ことばを使いこなす力や、語彙を身につけることができます。

◆ 子どもと本を親しませる

たくさんのお話を紹介することで、読書への興味を育むことができます。



2 やってみよう！ストーリーテリング



それでは、実際にお話を語るための手順を確認していきましょう。

(1)お話を選ぶ

まず、お話を選びましょう。

選ぶ時の大切なポイント

◆ 自分の好きなお話、本当に語りたいお話を選ぶ

自分が気持ちを込めて話すことができる、「子どもにぜひこのお話を聞いてもらいたい」と思うお話を選びましょう。

◆ 聞き手に合うお話を選ぶ

聞き手となる子どもの発達段階や興味などを考えて選ぶようにしましょう。特に、ことばのリズムや響きを楽しむお話は、小さい子どもでも楽しめますが、ユーモラスなお話などは、子どもの発達段階によって理解度が左右されます。子どもの年齢を十分に考えて選びましょう。

◆ 自分に合うお話を選ぶ

お話には相性があります。たとえ、自分が好きなお話、語りたいお話でも、その人には向いていないという場合があります。一般的には、個性的な人物が登場するお話や、ユーモラスなお話、創作のお話などは、お話の持つ雰囲気と語り手の声質などによって、合う、合わないが分かれやすいと言われています。

ただし、初めのうちは自分が語りたいお話に挑戦して、経験を積むことも大切です。また、昔話は初心者でも語りやすいでしょう。

構成

* 単純でわかりやすい

細かい描写や表現などが少ない、単純でわかりやすいお話

誰の視点で描かれているかがはっきりしているお話

時系列で展開していくお話

登場人物が少なく、それぞれの人物像がはっきり区別でき、人物関係を把握しやすいお話

*ストーリーがしっかりしている

起承転結がしっかりした文章で、聞き手の子どもの関心を引きつけ、興味を先へと引っぱる創造性豊かなお話

始まりで、時と場所、主人公、課題などが簡潔に示され、中盤で事件や出来事が展開し、無事に問題が解決されて終わるお話

ことばや表現

*ことばが単純で簡潔である

必要なことが、無駄のないことばで順序よく語られているお話

一つの文章が、語り手が息つぎのタイミングを気にせず無理なく語れ、聞き手が受けとめやすい長さのお話

*文章表現がわかりやすい

文章やことばが抽象的ではなく具体的で、語り手も聞き手もイメージしやすいお話

*文体がお話の内容と合っている

楽しいお話か悲しいお話か、現実的なお話か空想的なお話かなど、それぞれのお話の持つ性格や雰囲気にながらぬ文章表現のお話

はっきりしたテーマがあり、それを適切に表現しているお話

初めのうちは、これらの条件を満たしている昔話をおすすめします。また、良いお話を選ぶためには、ふだんから幅広くたくさんの昔話や物語を読んでおくことが大切です。経験を積むことで、お話を選ぶ評価の目が培われ、勘が養われていきます。



お話を選ぶための本

ここでは、お話を選ぶ時に参考になる本を紹介します。

◆ 日本の昔話

『日本のむかしばなし』 瀬田貞二文 瀬川康男・梶山俊夫絵 のら書店 1998年

日本で語られてきた多くの昔話の中から、13話を収録。

『日本昔話百選』 改訂新版 稲田浩二・稲田和子編著 三省堂 2003年

日本各地の代表的な昔話100話を、北国（北海道・東北）・中の国（関東・中部・近畿）・西国（中国・四国・九州）の三部に分けて収録。

※他にも『子どもに語る日本の昔話』全3巻（稲田和子・筒井悦子著 こぐま社 1995～96年）などあり。

◆ 世界の昔話

『イギリスとアイルランドの昔話』 石井桃子編・訳 J.D.バトン画 福音館書店 1981年

世界中の子どもたちに親しまれてきた、イギリスとアイルランドの昔話30話を収録。文庫版（2002年）

あり。他に『アジアの昔話』『黒いお姫さま ドイツの昔話』『ノルウェーの昔話』『ロシアの昔話』などあり。

『子どもに語るアジアの昔話』全2巻 松岡享子訳 こぐま社 1997年

アフガニスタンやパキスタン、バングラデシュなどアジアの国々で語られてきた昔話を27話収録。巻末に解説あり。他に『子どもに語るイギリスの昔話』『子どもに語るトルコの昔話』『子どもに語る北欧の昔話』『子どもに語るロシアの昔話』などあり。

『子どもに聞かせる世界の民話』 矢崎源九郎編 実業之日本社 1964年

81の国や民族から選ばれた81話を収録。子ども向けに編集した『こども世界の民話』上下あり。

『世界のむかしばなし』 瀬田貞二訳 太田大八絵 のら書店 2000年

イギリス、インド、スウェーデン、スペイン、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ロシアから選ばれた14話を収録。

◆ その他

『子どもに語るグリムの昔話』全6巻 佐々梨代子・野村滋訳 こぐま社 1990～93年

代表的なグリムの昔話64話を収録。各巻末には楽しんで聞ける年齢層、訳者がお話を語った時の子どもの反応など収録。6巻末は全昔話の索引付き。他に『子どもに語るアンデルセンのお話』全2巻あり。

『エパミナダス』（愛蔵版おはなしのろうそく1）東京子ども図書館編 東京子ども図書館 1997年

東京子ども図書館の「おはなしのじかん」で語られ、人気のあったお話を子ども向けに収録。1巻は「エパミナダス」他11話を収録。シリーズ全10巻。

『お話のリスト』 新装版 東京子ども図書館編 東京子ども図書館 2014年

226話を「まずこの話から」「さらに幅を広げて」の2章に分けて解説したリスト。子どもが楽しんで聞ける年齢、語るのに要する時間、お話の出典などが示され、巻末には、プログラム例、出典リストや話名索引、お話のタイプ、聞き手の年齢、登場人物や季節ほか、多様なキーワードからお話を探ることができる項目索引付き。

ここに紹介した本は、ごく一部です。また、一冊の絵本や物語をテキストにして、そのまま語ることもあります。その場合、特に昔話の再話や外国作品の翻訳などは、文体にも注意して選ぶようにしましょう。

(2)お話を覚える

それでは、選んだお話を覚えていきましょう。

覚える時の大切なポイント

◆ お話の文章をそのまま覚える

お話を語る時には、原則として、選んだお話の原文をそのまま覚えましょう。

お話は、どのようなことばで語られるかが重要です。簡潔でわかりやすく、お話の雰囲気合ったことばで書かれた文章を、そのままの形で覚えましょう。そうすることで、聞き手をお話の世界に誘います。

◆ お話をしっかりと理解し、自分のものにする

お話の文章をそのまま覚えるということは、お話を丸暗記するということではありません。丸暗記では、途中で止まってしまった場合、再び語り出すことが難しくなります。また、暗記した文章をただ読み上げるだけでは、聞き手がお話の世界に感情移入できない恐れがあります。

お話をしっかりと理解し、自分のものにするのが大切です。

覚える方法

① 何回か声に出して読む

語るお話が決まったら、声に出して読んでみましょう。声に出して読むことで、お話の雰囲気や流れをつかむことができます。

② お話の構成を考える

お話を読み取り、ストーリーの流れや構成を理解しましょう。

始まり、展開部、結末などの構成がわかると、お話の流れが覚えられるだけでなく、力を込めて語る部分や、さっと流す部分など、語り全体の組み立てがイメージできます。また、万一、語っている途中でことばに詰まり止まってしまった場合も、構成がわかっていると、自分のことばで再び語り出すこともできます。

③ お話を頭の中で思い描く

お話を読み取り、全体の流れを理解していく過程で、頭の中にぼんやりと場面や情景、登場人物などのイメージが浮かんでくるはずですよ。お話を覚える時には、このイメージを頭の中に思い描くのが大切です。

例えば、次のような点に着目し、自分なりのイメージをふくらませましょう。主人公は、どのような人物でしょうか。服装や顔つき、背格好などの見た目や、性格は賢いか、欲ばりかなど想像してみましょう。また、お話の情景や効果音、食べ物の味、匂いなども具体的に想像してみましょう。

より具体的にイメージにできたら、それらがお話の展開に従って、どう動いていくかを考えましょう。登場人物たちの位置関係や動き方、動く早さ、気持ちの動きなどの細かいところまでも、頭の中に思い描いてみましょう。

④ 語ってみる

頭の中に描いたお話のイメージをことばにして語っていきましょう。その際、全体の組み立てを意識して、力の配分を考えながら語ることが大切です。

もし、語っている途中でことばに詰まり止まってしまうところや、不安に感じる場所がある場合には、その部分を取り出して、改めて頭に入れ直しましょう。

⑤ 繰り返し練習する

一通りお話を覚えたら、自信を持って語ることができるように、何度も繰り返し練習しましょう。



(3)お話を語る

では、実際にお話を語ってみましょう。

語る時の大切なポイント

◆ 楽しみながら語る

そのお話が好き、それを子どもに伝えたいという思いを含めて、楽しみながら語りましょう。

◆ 自然体で語る

聞き手がイメージできるように、聞き手の反応を見ながら、あくまでも自然体で語りましょう。

動きや表情

* リラックスして、自然体で

語り手の緊張は聞き手にも伝わり、聞き手も緊張してしまいます。

聞き手がお話に集中できるよう、自然体で語ることを心掛けましょう。聞き手の反応を確認するためにも、常に聞き手の目を見るように意識しましょう。

* 表情や身振りも自然に

聞き手は、語り手の表情からも多くを読み取ります。大げさな表情や身振りは慎みましょう。

また、聞き手が混乱したり、お話の世界から離れたりするような不用意な身振りは避けましょう。

発声や発音

* お腹から声を出し、聞き取りやすい声で、はっきりと発音する

一番後ろの聞き手にも聞こえるように声を出し、ことばは語尾まではっきり発音しましょう。

* なまりやアクセントなどは気にしない

無理に標準語で語ろうとせず、自分にとって違和感のない言葉で語りましょう。

声は心の状態を微妙に反映します。語るお話のことだけを考え、神経を集中させて語りましょう。

テンポや間

* 聞き手と心を通わせながらゆっくりと語る

始まりはお話にとって大事な導入になります。特に丁寧にゆっくりと語りましょう。一定のテンポではなく、お話の展開に合わせてメリハリをつけましょう。正しいテンポや適切な間は、語りにはとても大切です。

* 間を大切に

時間の経過や場面が変わるところ、お話の展開の鍵となる出来事やクライマックスなどでは、聞き手の反応を見ながら十分な間を取るように心掛けましょう。

会話は際立たせるのではなく自然にまかせ、お話の展開の鍵となることばや物事などははっきり語りましょう。

一定のことばで繰り返しが表現されているお話は、音やリズムのおもしろさを意識しながら語りましょう。また、唱えことばや歌などは、大げさにならず、自然に丁寧に語りましょう。

ユーモラスなお話は、他のお話に比べて、間の取り方やメリハリのつけ方がポイントになります。語り方を工夫してみましょう。また、聞き手が笑ってくれた時におかしさが生きてきます。聞き手の反応に十分注意して語るように心掛けましょう。

語り全体の組み立てや配分を考え、お話の特徴や持ち味を生かして語りましょう。

昔話と創作のお話の違いは、語り方にも反映します。昔話は素朴に、創作のお話は、その作品が持つ個性や独特の表現、雰囲気などに注意しながら語るよう心掛けましょう。

より良い語りのためには、実際にお話を語って聞き手の反応を確かめたり、積極的に他の人の語りを聞いたりしましょう。同じお話を別の人から語るのを聞くことは良い経験となり、自分の語りにも生かすことができます。

また、ふだんから声に関心を持つことも大切です。

すべては経験から始まります。よく読み、よく聞き、よく語りましょう！



語りの Q & A

Q お話を語り始める時に気を付けることは？

A お話のはじめは、主人公や時間と場所、課題や問題などを示し、聞き手の心を引きつける大事な導入の部分です。子どもが自分の方を見ているかを確認してから語り始めましょう。

Q お話を語っている途中でことばに詰まったら？

A 自分のことばでよいので、とにかく語り続けましょう。また、もし間違えたとしても、慌てず、それがわかるようなしぐさをしたり、やり直したりすることは避けましょう。その時点で、お話から子どもの心が離れてしまうので気を付けましょう。

Q お話を語っている途中で子どもから発言や質問があったら？

A 子どもが何か発言をした時には、その子どもの方を見て軽くうなずくか目で合図をするなどして、そのままお話を語り続けましょう。また、子どもから質問があった場合にも、手短かに答えるか、「後でね」などと言って、すぐに語りを再開しましょう。

Q お話に子どもの知らないことばが出てきたら？

A 子どもは、わからないことばが出てきてもそれほど気にしません。また、前後のことばから察して知らないことばを理解するので、そのまま語り続けましょう。そのことばがわからないとお話を理解できない場合や、他の子どもからも同じところで質問が出るような時には、お話を始める前に簡単に説明しておきます。

Q 初めての子どものお話の前でお話を語るのですが…

A 初めての子どものお話の前でお話を語る時には、子どもが緊張しないで聞けるように、お話に影響のない程度で少しことばを交わすなどしてから始めると良いでしょう。

Q 最初のうちは短いお話を選んだ方が良い？

A 初心者は、覚えやすそうだからと短いお話を選びがちですが、短いお話でも語るには難しく、テクニックを必要とするものがあります。少し長くても、昔話など起承転結のはっきりしているお話の中から、自分の好きなものを選ぶと良いでしょう。

(4)ストーリーテリングの実践

準備と確認

場所と時間

* 場所はできるだけ特別な部屋で行う

できるだけ仕切りのある特別な部屋で行い、部屋が用意できない場合には衝立などで仕切りましょう。

子どもがお話に集中できるよう、人の行き来があるところ、外部の音が聞こえるところ、カウンターの近くや電話の近くなどは避けましょう。

* 時間は30分程度が目安

子どもが集中できる時間で行いましょう。

人数とグループ分け

* 一度に20名ぐらいまで

子どもの反応に気を配りながら語りを続けることができるのは、一度に20名ぐらいまでです。

* 子どもの年齢に幅がある場合はグループを分ける

子どもの年齢に幅がある場合は、小さい子どもと大きい子どもなど、できるだけグループを分けるようにしましょう。

プログラム

* プログラムを工夫する

じっくり聞けるお話と短いお話を組み合わせたり、内容や雰囲気などが異なるお話を組み合わせたりして、工夫しましょう。また、間にわらべうたなどを入れましょう。

集まる子どもの年齢が異なる時には、小さい子どもに合わせましょう。

具体的なプログラムの組み方などについては、「お話を選ぶための本」(p. 6)で紹介している『おはなしのリスト』(東京子ども図書館)などが参考になります。

* 一回のプログラムの語り手はできるだけ一人が担当する

語り手が何度も入れ替わると、子どもは落ち着きがなくなります。また、一人が担当することで、子どもがお話に集中できるとともに、担当者がお話の時間全体をコントロールしやすくなります。

本番

環境

* 子どもの気を引くものは視野に入れない

語り手は、壁を背にして子どもと向き合います。

子どもの気を引くものは、視野に入れないように気を配りましょう。

子どもの持ち物も事前に別のところに置くようにしましょう。

*子どもの顔が見える位置に座らせる

子どもが床に座る時は語り手は椅子に座り、子どもが椅子に座る時は語り手は立ちましよう。

お話を始める前に子どもの顔が見えるか確認し、必要があれば、一人一人の顔が見える位置に移動してもらいましょう。

*子どもの出入りはお話とお話の間に行く

子どもの出入りは、お話とお話の間にしましょう。できれば、補助を務める人がいると安心です。

お話が終わった後で

*ストーリーテリングに使った本を紹介する

ストーリーテリングに使った本は、お話を語っている間は子どもから見えるところに並べておき、全てのお話が終わったところで紹介します。本のタイトルなどを明確に伝え、図書館などで読むことができることも知らせましょう。

本を紹介することで、別のお話や読書への興味につなげましょう。

*子どもに感想を求めない

子どもに感想を求めたり、教訓のようなことを付け加えたりせず、お話の余韻を味わえるように終わらしましょう。

振り返り

◆ 次回に活かすため、次の点について振り返り、全体の評価をしましょう。

子どもの反応や、反省点を記録しましょう。

ことばに詰まったり、語っている途中で良くなかった部分があったりした場合には、テキストを見直しましょう。

子どもが集中できる環境を整えられたか確認しましょう。

お話のタイトル、お話の載っていた本、語り手の感想などを記録しておくこと、次回の参考になります。

【著作権について】

お話には著作権があります。児童書四者懇談会が作成した手引き「お話会・読み聞かせ団体等による著作物の利用について」には「一般的なボランティア活動であれば、ほとんどの場合問題となることはありません。」とありますが、語るにあたって、著作権者に無許諾で利用できる場合と、許諾が必要な場合があります。日本書籍出版協会のホームページに掲載されていますので、参考にしてください。

URL <http://www.jbpa.or.jp/guideline/readto.html>

3 参考図書



ストーリーテリング

ストーリーテリングの歴史や理論、具体的な実践方法など、お話を語る上で役立つ図書を紹介します。

『お話とは』新装改訂版（レクチャーブックス・お話入門1）

松岡享子著 東京子ども図書館 2009年

『お話の実際 話すことⅡ』新装版（レクチャーブックス・お話入門5）

松岡享子著 東京子ども図書館 2008年

『お話を語る』（たのしいお話）

松岡享子著 日本エディタースクール出版部 1994年

『お話を子どもに』（たのしいお話）

松岡享子著 日本エディタースクール出版部 1994年

『語ってあげてよ！子どもたちに お話の語り方ガイドブック』

マーガレット・リード・マクドナルド著 佐藤涼子訳 編書房 2002年

『語るためのテキストをととのえる 長い話を短くする』新装改訂版（レクチャーブックス・お話入門7）

松岡享子編著 東京子ども図書館 2014年

『語る人の質問にこたえて』（レクチャーブックス・お話入門6）

松岡享子著 東京子ども図書館 2011年

『“グリムおばさん”とよばれて メルヒェンを語りつづけた日々』

シャルロッテ・ルジュモン著 高野享子訳 こぐま社 1986年

『子どもたちをお話の世界へ ストーリーテリングのすすめ』

E・コルウェル著 松岡享子ほか訳 こぐま社 1996年

『子どもと本の世界に生きて 一児童図書館員のあゆんだ道』

E・コルウェル著 石井桃子訳 こぐま社 1994年

『これから昔話を語る人へ 語り手入門』

松本なお子著 小澤昔ばなし研究所 2012年

『ストーリーテラーへの道 よいおはなしの語り手となるために』

ルース・ソーヤー著 池田綾子ほか訳 日本図書館協会 1973年

『ストーリーテリング 現代におけるおはなし』（児童図書館叢書3）

間崎ルリ子著 児童図書館研究会 1987年

『ストーリーテリング その心と技』

エリン・グリーン著 芦田悦子・太田典子・間崎ルリ子訳 こぐま社 2009年

『ストーリーテリング入門 お話を学ぶ・語る・伝える』

マーガレット・リード・マクドナルド著 末吉正子・末松優香里訳 一声社 2006年

『よい語り 話すことⅠ』新装版（レクチャーブックス・お話入門4）

松岡享子著 東京子ども図書館 2008年



発行日 平成28年3月31日

編集・発行 **山梨県立図書館** (かいぶらり)

YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

〒400-0024

甲府市北口2丁目8-1

TEL 055-255-1040

FAX 055-255-1042

URL <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

この冊子に関するお問い合わせ先：山梨県子ども読書支援センター（山梨県立図書館内）

*当館ホームページ上からもこの冊子を見ることができます。

*本冊子は個人的な目的に使用する以外で複写・転載することはお控えください。